

■効果の見える治水事業
徳島県 堤の外 急傾斜地崩壊対策事業

徳島県南部総合県民局

県土整備部<美波庁舎>副部長 花田 務



○概要

当箇所は、徳島県海部郡海陽町奥浦にあり、『四国の右下』と呼ばれる県南地域でも最南端に位置する海部灘に面した沿岸部にあり、南海トラフ巨大地震発生時における津波襲来地となっております。

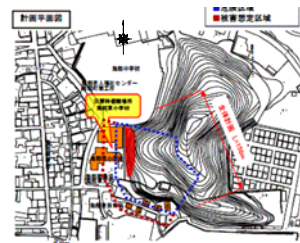
堤の外急傾斜地崩壊危険区域は、史跡となっている海部城址「城山」の西側と南側に広がっており、西側のがけ下には地域防災計画の避難所に指定されております海部小学校があります。また、斜面上端部には「曲輪」と呼ばれる海部城址の史跡があります。

さらに、南側には、地域防災計画の津波避難場所に指定されております「城山堤ノ外」（城山の中腹部にある平坦地）があることから、避難所である海部小学校や人家を保全する急傾斜地崩壊防止施設の整備と併せ、管理用道路をこの津波避難場所への避難路として活用し、巨大地震発生後に安全に徒歩で避難できるよう配慮しております。

徳島県南部総合県民局では、今後とも、津波避難困難地域の解消を図るため、土砂災害対策に併せた津波避難路・避難場所の確保を進めてまいります。

○事業内容

- ・事業期間 平成22年度～平成26年度
- ・整備内容 擁壁工 L=150m
法枠工 L=973m2



南海トラフ巨大地震に備えた災害に強いまちづくり

徳島県 海陽町長 前田 恵



海陽町は、平成18年3月31日に海南町、海部町、穴喰町が合併して誕生した総面積327.65㎡のまちで、徳島県の最南端、四国の右下に位置し、南東の海岸線は太平洋を臨み、西は高知県と隣接しています。青く美しい海、数々の岬や入り江を有する美しいリアス式海岸は室戸阿南海岸国定公園に指定されています。

さて、近いうちにその発生が懸念される南海トラフ巨大地震は、その揺れの後、本町に、極めて短時間で津波が到達するとされており、町民の「命を守る」高台等、安全な場所への避難対策の充実が、本町の最重要課題と捉え、これまでも避難タワーや避難路の整備を推進して参りました。

また、徳島県が施工する急傾斜地崩壊対策事業では、急傾斜地崩壊防止施設と津波避難路を兼ねた管理用階段を一体的に整備いただいております。これらの施設を加え現在73箇所の津波避難場所が整備済みとなっております。

こうした、施設整備効果を活かし、津波、地震及び土砂災害に対する町民の防災意識の向上を図るため、本町では、施設の整備完了毎に避難訓練を実施しており、このようなハードとソフトの一体的な取り組みによって、地域防災力の強化に努めているところです。

なお、本町は、助かった「命を繋ぐ」ため、一時避難場所のほかにも消防、警察、自衛隊などの応急活動拠点、そして応急仮設住宅用地にも活用出来る防災拠点施設（地域防災公園）を計画中です。

今後、こうした施設の整備につきましても、これまで以上に国、県とも連携を深め、より効率的な整備を行うことにより、地域住民の安全・安心に資する災害に強いまちづくりを推進してまいります。

